

知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

1 団体名

多摩都市モノレール（株）

2 実施日時

令和元年7月17日（水） 13時47分～14時01分

3 出席者

- ・団体側出席者：醍醐社長、阪本総務部長、
山下都市基盤部長（都市整備局）
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長、
小林行政改革推進部長

4 議事概要

○小池知事

沿線人口の減少が想定される中、どのように活性化を図っていくか計画的に取り組を進めていく必要がある。

ビール列車など、いろいろとイベント等も設けており、積極的に地域の活性化に取り組んでいると思うが、多摩都市モノレールだけで沿線人口を増やすというのも難しい。地域全体開発と多摩都市モノレールのあり方との相関関係でどのように捉えるか伺いたい。

○醍醐社長

駅から概ね500メートルの駅勢圏人口は20年ほどで約4万5000人増えており、弊社の路線を使っている方がかなり増えていると思われる。

多摩全体の人口は減少するが、多摩モノレールがあるから住みたい町だと思ってもらい、駅勢圏に人を呼び込むことが大事だと思うので、沿線市と連携をしながら、取り組を進めていかなければならないと考えている。

○小池知事

立川駅周辺では、ホテルが建てられるとも伺っている。

○醍醐社長

来年春に、立川北駅と昭和記念公園の間に複合施設ができ、そこに高級ホテルやホールが入ることになっている。それから、ショッピングモールが来年に建ち上がる予定なので、モノレールの利用客の増加につながることを期待している。

○武市財務局長

マイナスの影響として、大学などが少しずつ都心に回帰する動きが見られるが。

○醍醐社長

沿線の大学が都心回帰した場合の影響等は考える必要がある。ただ、全員がモノレールを使っているわけではないので、もう少し分析をしながら対策を考えたいと思っている。